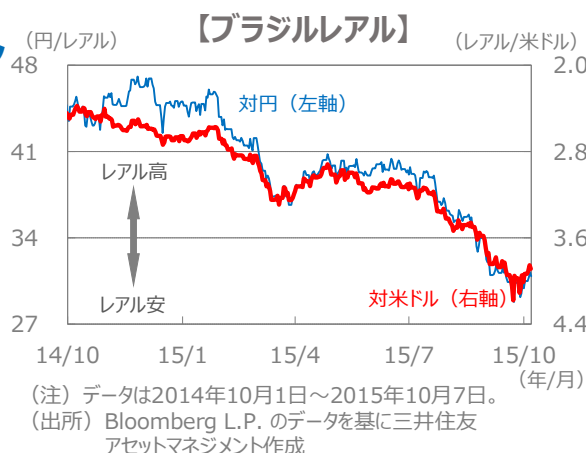


今日のトピック ブラジルレアルの現状と見通し

中銀がレアル防衛姿勢を強める

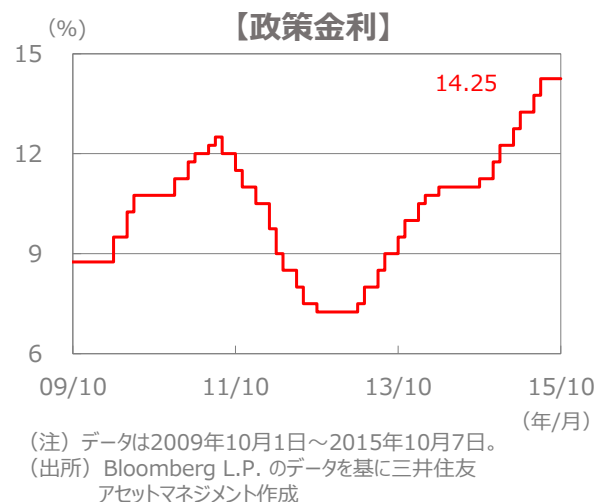
ポイント1 レアルは9月下旬以降持ち直し 中銀は通貨安定化策を再開

- ブラジルレアルは、中国の景気減速と米国の利上げ観測といった海外要因や、国内景気低迷と財政不安などが影響し、9月に入り下落傾向を強めていました。9月下旬に対円で史上最安値（1レアル=28円台）を付けて以降持ち直しつつあります。
- 9月23日にブラジル中央銀行（以下、中銀）が4月以来中止していたスワップ取引での通貨安定化策を再開したことが、レアルの主な反転要因になりました。



ポイント2 政府は財政再建姿勢を強化 財政を巡る不透明感が残る

- ルセフ大統領は、9月上旬に大手格付け会社S&Pがブラジル国債を非投資適格級に引き下げたことを受けて、来年度予算を修正し、財政収支の目標を引き上げました。さらに10月2日には内閣改造を行い、省庁数や閣僚給与の削減など歳出削減策も打ち出しました。
- 一方、会計検査院は10月7日、昨年度の政府決算に不適切な処理があり、議会はこれを否認すべきと報告しました。財政に対する不透明感は一たび薄らぎましたが、再び強まる可能性が高まっています。



今後の展開 中銀は利上げも辞さない姿勢、財政健全化がレアル安定化のカギ

- 緊縮財政による景気への不安などから、議会では歳出削減に反対し、大統領の罷免を模索する動きが活発化しています。景気への不安は中国の景気が持ち直す場合に和らぐ可能性がありますが、今後もレアルの上値を抑えそうです。
- 中銀は、財政再建が進まずレアル安が進む場合には、景気低迷下でも利上げを辞さない姿勢です。議会の反対や国民の不満などから難しい情勢ながら、ルセフ政権が財政再建を推進することは、今後のレアルの安定化のカギになると考えられます。

ここも
チェック! 2015年 9月25日 最近の指標から見るブラジル経済 (2015年9月)
2015年 9月10日 「財政再建」は正念場 (ブラジル)

■ 当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■ 当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■ 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■ 当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■ 当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■ 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■ 当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。